

TRACK B: Database Pharmacoepidemiology (Japanese)

企画担当： 竹内 由則・岩上将夫

午前 (8:30-12:00)：医療情報データベースを用いた薬剤疫学の基礎 Fundamentals of Pharmacoepidemiology

趣旨：

医療情報データベース（リアルワールドデータ）を用いた薬剤疫学研究を実施するにあたり必要と考えられる基礎知識として、①薬剤疫学研究に利用可能なデータベースの分類と選択の仕方、②薬剤疫学研究に有用な各種研究デザインの強みと選び方、③薬剤疫学研究において特に考慮の必要なバイアスとその対処方法について、最新の解説を行います。産官学の立場を問わず、薬剤疫学の初学者の方々、データベース研究の戦略・選択肢を増やしたい中級者の方々に有用です。

1. 医療情報データベースの選択 Selection of medical information databases

講師：定月 保就（バイエル薬品株式会社）

2. 薬剤疫学研究のデザイン Common study designs in pharmacoepidemiology studies

講師：三村 亘（国立国際医療研究センター）

3. 薬剤疫学研究におけるバイアス Common biases in pharmacoepidemiology

講師：安富元彦（ハーバード大学）

午後 (13:00-17:30)：よく使われる薬剤疫学方法論に潜む誤解 Commonly Used methodologies in Pharmacoepidemiology

趣旨：

統計ソフトウェアの普及に伴い、様々な統計学的手法や研究デザインが薬剤疫学研究においても利用可能になってきています。一方で、それら手法・デザインの理論的背景や限界、利用上の注意点などの理解が十分に進まないまま普及が進んだ結果、多くの薬剤疫学研究で、理論上は不適切である利用が漫然と行われているケースがあります。本セッションでは、Pottegård et al., (2022) Where to begin? Thirty must-read papers for newcomers to pharmacoepidemiology. *Pharmacoepidemiol Drug Saf.*にて取り上げられた統計学的手法・研究デザインのうち、薬剤疫学研究で非常によく用いられている「生存時間解析」「時間依存性治療・交絡の処理」「自己対照研究デザイン」「欠測データ解析」を取り上げます。講演ではこれら手法・デザインの概要に加え、実用上の“よくある誤解”についての注意喚起およびその対処法について概説します。受講者は、疫学研究の基礎的概念(研究デザイン、効果指標の算出、交絡バイアス等)を理解していることが前提です。基礎的な数学的表記を利用した解説が行われます。

1.ハザード比の因果的解釈 Causal interpretation of hazard ratio

講師：篠崎智大（東京理科大学）

2.時間依存性治療・交絡 Time-varying treatment and confounder

講師：萩原康博（東京大学大学院）

3.自己対照研究デザインにおける因果推論 Causal inference based on self-controlled study designs

講師：竹内由則（横浜市立大学）

4.欠測データ解析 Missing data analyses

講師：口羽文（帝京大学）